

《2026年3月 公開サロン（通算353回）報告》

「中村覚之助杯」報告

ー日本サッカーの“始祖”の名を冠した少年サッカー大会ー

- 【日時】2026年3月31日（火）19:00～21:00 ⇒ 終了後はオンライン懇親会（22:30まで）
【会場】オンライン（Zoom）
【テーマ】“中村覚之助杯”報告ー日本サッカーの“始祖”の名を冠する少年サッカー大会
【演者】中塚義実（特定非営利活動法人サロン2002理事長／日本ヤタガラス協会副会長）

【参加者12名】 ◎はNPO会員、○は会員外のファミリー、無印はファミリー外
○赤阪修（阪南大学）、熊澤拓也（東洋大学）、◎小池靖（株式会社バイタル）、在仲靖二（日本ヤタガラス協会）、○新谷十穂子（郁文館高校1年）、○鈴木崇正（NEC ビジネスインテリジェンス）、谷美輝（株式会社クリアネット代表取締役）、◎中塚義実（NPOサロン2002理事長）、中村崇（那智勝浦町）、○野田直広（富士電機）、◎野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会/会社員）、○吉原尊男

【報告書作成】中塚義実

注）写真・スライドは、クレジットが入っているもの以外は中塚義実所蔵・提供

<目次>

はじめに

1. 概要（2/17配信）	2
2. 本日の進行案	2
I. 第2回「中村覚之助杯」視察報告（中塚義実）	3
1. 那智勝浦町への移動と大会前日（3月12～13日）	3
2. 大会初日と熊野三山ツアー（3月14日）	6
3. 大会2日目（3月15日）	10
4. ディスカッション	14
II. 再確認：中村覚之助とは	16
1. 中村覚之助のメジャー化	16
2. 日本サッカーの“始祖”中村覚之助と東京高師の役割	17
3. JFAのシンボルマークをめぐって	23
III. 今後に向けて	26

【キーワード】中村覚之助、東京高等師範学校、東京高師、那智勝浦町、熊野三山、八咫鳥、日本ヤタガラス協会、少年サッカー、JFA、シンボルマーク、中村統太郎、中塚義実

はじめに (中塚義実)

1. 概要 (2/17 配信)

中村覚之助をご存じでしょうか。サロン 2002 でも何度か取り上げた日本サッカーの“始祖”と言える方です。

明治期に海外からやってきた近代スポーツは、日本では学校を通して全国に広がりました。東京高等師範学校の卒業生が全国の旧制中学校や師範学校に赴任して、サッカーの種をまいていったのはよく知られるところです。その起点となったのが、那智勝浦町出身の中村覚之助です。

サロン 2002 でもこれまで何度か取り上げています。以下の報告をご参照ください。

- ・2009年3月21日 日本サッカー史シンポジウム「中村覚之助と日本サッカーの夜明け」

https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2009/2009-3.pdf

- ・2016年12月17日 公開シンポジウム 2016「日本サッカーのルーツを語ろう！ー東京高等師範学校の足跡を中心に」

https://www.salon2002.net/src/pdf/symposium/2016_sympo.pdf

平成 14 (2002) 年度に和歌山県文化協会による第 53 回先覚文化功労者顕彰を受けているとはいえ、若くして亡くなった覚之助の功績が世に出ることはほとんどありませんでした。日本フットボール学会 3rd Congress (大東文化大学、2006年1月14日・15日)における篠田昭八郎氏の発表が、学会で取り上げられた最初でしょう。そして 2009 (平成 21) 年 3 月に那智勝浦町で日本サッカー史シンポジウム「中村覚之助と日本サッカーの夜明け」が、翌 2010 年 2 月には東京で「日本サッカーの始祖 熊野の中村覚之助」が開かれます。その頃は日本サッカー殿堂入りへ向けて盛り上がりましたが、なぜか勢いを失い、いまだ殿堂入りは実現していません。

コロナ禍の 2021 年度、紀の国わかやま文化祭の年に、中村覚之助は那智勝浦町の名誉町民に顕彰されました。徐々に地元の機運は高まりはじめ、2024 年度からは少年サッカーの「中村覚之助杯」がはじまります。その第 2 回大会が 2026 年 3 月 14～15 日に開かれます。

この大会を中塚が現地でも視察し、地元の方々と意見交換してきます。公開サロンでは、中村覚之助の功績を改めてご紹介し、地元那智勝浦町で何がはじまり、どこへ向かおうとしているのかを皆さんと共有し、これからについて意見交換したいと思います。

奮ってご参加ください！

2. 本日の概要

年度末最終日の公開サロンは、15 年ほど前からどっぷりつかっている「中村覚之助」に関する話題です。

次のような内容で、ところどころ質疑の時間をとりながら進めます。

1) 第 2 回「中村覚之助杯」

視察ツアー (含熊野三山めぐり)

2) 再確認：中村覚之助とは

3) 今後に向けて (意見交換)

今日は那智勝浦町からも何名か参加されています。初めての方もおられます。まずは自己紹介をお願いします (本報告では省略)。



2026年3月公開サロン(通算353回)
「中村覚之助杯」報告
日本サッカーの“始祖”の名を冠する少年サッカー大会
演者:中塚義実
(NPOサロン2002理事長)
2026年3月31日(火)19:00~21:00 オンライン

I. 第2回「中村覚之助杯」視察報告（中塚義実）

1. 那智勝浦町への移動と大会前日（3月12～13日）

昨年3月末で高校教師を退職し、週2日の大学非常勤以外は時間を自由につかる生活です。春休みはすべて自由時間なので、今回は那智勝浦から大阪経由、つくばまで、1週間以上の旅を楽しみました。まずはそのあたりの報告をいたします。

3月12日（木）夜の池袋駅東口高速バス乗り場です。いろんな行き方がありますが、どの方法でも紀伊半島の先にある那智勝浦町は、東京からメチャクチャ遠いんです。よって私は夜行バスを結構使います。21:30に池袋を出て、翌朝8:00過ぎには勝浦温泉着。安いからというのがありますが、夜行バスに乗る前には一杯引っ掛けていくので、値段的にはあまり変わりません。けどこれが習慣になっています。

3月13日（金）朝に現地着。勝浦漁港の「にぎわい市場」は朝からやっています。外国人観光客も来ています。マグロ丼が1,000円ちょっと。量もあっておいしい！これで1日がはじまります。

漁港周辺はこれまでも何度かうろろしたことはありましたが、朝の時間帯に来たのは初めてです。にぎわい市場の裏にある漁港のあたりにふらっと行ってみました。すると…マグロがずらっと並んでいます。朝の8時過ぎなので、どういう状況なのかよくはわかりませんが、ここから全国に出荷されると聞いています。

これを捕ってきた漁師さんが片づけをしているところです。「写真撮っていいですか？」と言って撮らせてもらったのがこの写真。東南アジアの方ばかりです。

このあたりで那智勝浦町の中村崇さんから少し補足をいただけますか。



中村：私どもの那智勝浦町は、マグロのはえ縄漁の水揚げが盛んなところです。マグロは大きく分けると四種類あるんです。一番有名なのがクロマグロ、本マグロです。それからメバチマグロ、キハダマグロで、一番小ぶりなのがピンチョウマグロという、ヒレの長いマグロです。うちの町ではピンチョウマグロの水揚げが最も多くなっています。美味しいマグロで、価格もリーズナブルなので、おすすめのマグロです。

船員さんは、いま本当に海外の方が多いです。特に東南アジアの方がいっぱいいらっしゃって、そういったところに人材を頼っているような状況です。

中塚：船籍も、和歌山県の船よりも県外の船が圧倒的に多いとお聞きしています。

中村：そうですね。九州、沖縄方面の船籍が多いです。

まだ夜行バスから降りて朝飯を食べたところです。午前中は時間があるので、ホテル浦島の日帰り温泉を楽しみました。有名な忘帰洞、洞窟の温泉があるところです。このあたりでゆっくり過ごしているとお昼になり、商店街の「竹原」というお店でマグロ定食。1,500円だったと思います。以前はもっと安かったんですが、ちょっと上がったようです。ボリューム満点、マグロ三味の定食です。

こうして昼ごろまで過ごし、中村崇さんと合流し、会場を視察させていただきました。

数年前に天然芝になりました。いろんな人が使うので荒れている部分もありましたが、すごくいいグラウンドです。

隣接する那智勝浦町体育文化会館の中には展示コーナーがあります。那智勝浦町の名誉町民、西田修平さんと中村覚之助の展示です。西田修平さんは「友情のメダル」で有名な方で、私らが子どもの頃、小・中学校の道徳の教科書に載っていたと記憶しています。

高校生の新谷さんは、「友情のメダル」の話聞いたことはありますか？

新谷：学校で習ったことはありませんけど、オリンピック教育の関係で何度かお聞きしました。

そうですか。その方も那智勝浦のご出身です。中村覚之助と並んで展示されていました。

次に覚之助のお兄さんのお孫さん、中村家を継いでおられる中村統太郎さん宅へお伺いし、統太郎さんと中村崇さんと三人でいろいろ話しました。

中村崇さんは翌日の大会準備があるので会場へ。私は統太郎さんの車で熊野三山めぐり第一弾、熊野那智大社へと向かいました。

那智の大滝は、雨がしばらく降らなかったために水量が少なかったですね。「こういうのは珍しい」と統太郎さんもおっしゃっていました。

那智山の青岸渡寺と熊野那智大社。そしてここには八咫鳥のモニュメントがあります。隣の看板には八咫鳥の説明があります。「日本サッカー協会のシンボルマークに八咫鳥が使われていますが、これは日本のサッカーの生みの親である那智勝浦町出身の中村覚之助氏にちなんで選定されたと言われています」という書き方です。このあと他のところの紹介記事も出てきますが、それぞれニュアンスが異なります。



那智山に登る大門坂駐車場には「なでしこジャパン記念モニュメント」があり、ここにも八咫鳥がいます。紹介文には「シンボルマークの発案者とされているのが、日本サッカー協会の初代理事の一人、内野台嶺氏（うちのたいれい）である」。そのことで内野台嶺氏は日本サッカー殿堂入りされています。そして覚之助との関係について、「中村覚之助氏の後輩にあたり、明治39年に中村覚之助氏が逝去した訃報を聞き悲しんだ一人」と書かれています。当時、内野台嶺氏は東京高師の1年生です。「中村覚之助氏のことを偲び三足鳥（やたがらす）として提案したことが、まったく無関係ではなかったと考えられる」と、少しぼかした書き方になっています。

JR 那智駅前、顕彰碑があります。駅に向かって左側にある「道の駅 なち」にも展示コーナーがあり、ここでも覚之助のことが紹介されています。那智勝浦町のいろんところで覚之助が紹介されているのはよいことですが、JFA のシンボルマークと八咫鳥については微妙な記述になっています。



JR 那智駅前。⇒は顕彰碑



「道の駅なち」の展示



那智山に登る「大門坂駐車場」

顕彰碑の横にある碑文にはこう書かれています。「日本サッカー協会の旗章「三本足の八咫鳥」は熊野出身の氏に因んで選定したと伝えられている」。この碑文について統太郎さんは一切関わっておられないのですが、ある JFA 関係者からは、「選定したと伝えられている」と断言するのではなく、

「選定したとも伝えられている」だったらいいんだけどと言われたことがあるそうです。

この日の夕食は統太郎さんとともにし、（統太郎さんは飲みませんが）うまい酒と肴を楽しんだのち、温泉旅館「小阪屋」に泊まりました。

いよいよ大会です。



2. 大会初日と熊野三山ツアー (3月14日)

第2回 中村覺之助杯サッカー大会開催要項及び競技方法 複数チーム登録/体調不良の不参加もあり、
全体で80~90名ほどの小学生が参加。
(第1回は「140名」という数字あり)

1. 大会趣旨

大会を通じて当地域におけるサッカー競技の普及活動を始め、サッカーを日本に伝え普及に尽力された「中村覺之助」氏の那智勝浦町名誉町民顕彰周知を目的にサッカー大会を開催し、子ども達の健全な発達と成長、各小学生サッカーチームの交流を深める事を旨とするとともにスポーツと文化の融合を図る。

2. 開催日程及び内容

令和8年3月14日(土) 開会式 9時~ ※8時50分ごろに集合願います。

予選リーグ 9時30分~15時(※中)

令和8年3月15日(日) トーナメント戦 9時~12時 第2回 「中村覺之助杯」 大会1日目<3月14日(土)>

表彰式並びに開会式 12時~

※午後からサッカーイベント

予選リーグ・ブロック別組み合わせ

プログラム記載の人数 ↓

3. 主催

那智勝浦町・那智勝浦町教育委員会

4. 協力及び協賛

那智勝浦町スポーツ少年団サッカー競技部・株式会社クレア

5. 大会役員

大会長 堀 順一郎

大会副会長 岡田 秀洋

6. 開催会場

那智勝浦町 木戸浦グラウンド(那智勝浦町天満441-8)

7. 大会参加チーム及び抽選会結果について

東牟婁郡内8チーム

抽選会結果は別紙

Aブロック

№	チ	ー	ム	名													
1	宇	久	井	ス	ポ	ー	ツ	少	年	団	16名						
2	新	宮	サ	ッ	カ	ー	ス	ポ	ー	ツ	少	年	団	U	1	2	14名
3	ト	ル	ベ	リ	ー	ノ	・	ガ	ー	ル	ズ	11名					
4	古	籠	サ	ッ	カ	ー	少	年	団	15名							

Bブロック

№	チ	ー	ム	名													
1	那	智	勝	浦	F	C	15名										
2	新	宮	サ	ッ	カ	ー	ス	ポ	ー	ツ	少	年	団	U	1	1	15名
3	ト	ル	ベ	リ	ー	ノ	・	ク	ロ	シ	オ	F	C	12名			
4	串	本	J	F	C	20名											

大会パンフレットより

計118名

第2回中村覚之助杯は3月14日と15日。体育文化会館隣の木戸浦グラウンドにて、東牟婁郡（那智勝浦町、串本町）と新宮市の計8チームが参加しました。小学校高学年です。プログラムに記載されたメンバーを数えると計118名となりますが、複数チームに登録している子もいます。例えばトルベリーノ・ガールズは女子のチームですが、人数が揃わないので他のチームに登録されている女子も含まれています。複数チームへの登録が認められているゆるやかな大会です。体調不良（インフルエンザなど）で不参加の子もいたようなので、全体で80~90人ぐらいだったかなと思います。

中村さん、実際に参加された人数についてのデータはありますか？

中村：まあだいたい100名程度かなと思います。登録はおっしゃるとおりですが、昨年度との大きな違いは、今回地元の東牟婁地域のスポーツ少年団のサッカーチームが、昨年度は単独でチームがあったんですけど、今年に入っていくつかのチームがなくなりまして、その代わりにガールズチームだったり、新宮サッカースポーツ少年団からU-12とU-11の2チームが出場するなど、そういった形でなんとかチームをそろえた形になってます。少子化の影響が進んでいるというのが今年の実感でした。

私も現地で少子化の影響と、地方ならではの大変さを感じました。チームが統合されることによって、子どもたちの日常的な活動の際の移動距離が遠くなります。自転車では行けません。親御さんが送り迎えせざるを得ない。けど逆に、そのことで親御さん同士の仲がすごくいいなというのを感じました。少子化が進んでいる、地方の現実を垣間見た気がしました。

参加者全員に配布されたパンフレットの表紙はもちろん中村覚之助です。そして「名誉町民中村覚之助氏の紹介」というページがあります。 こういうのを選手、保護者が手に取って見るわけです。

「那智勝浦町内のサッカー関連施設」は、前日に私が回ったところです。

<h3>第2回中村覚之助杯サッカー大会</h3>  <p>開催日 令和8年3月14日(土)・15日(日) 場所 木戸浦グラウンド 主催 那智勝浦町・那智勝浦町教育委員会 協力 那智勝浦町スポーツ少年団サッカー競技部</p> <p>大会パンフレットより</p>	<h3>名誉町民中村覚之助氏の紹介</h3> <p>顕彰年月：令和3年9月10日</p> <p>【日本サッカーのバイオニア】 明治11年5月15日 徳 那智勝浦町木戸宮(はまのみや)生まれ。東京高等師範学校(現 筑波大学)在学中、ア式蹴球部(現 筑波大学蹴球部)を創設。 また、海外の文献を翻訳・編纂し、東京高等師範学校蹴球部の名で日本初のサッカーの指導書を出版。 明治37年には、中村氏の企画により日本で初のサッカー国際試合を行うなど、その活躍は日本サッカーの礎に大きく寄与されました。</p> <p>【経歴】 明治11年5月 現在の那智勝浦町木戸宮で生まれる 32年3月 新宮山師範学校 卒業 4月 宇久井高等小学校にて教員になる 33年4月 東京高等師範学校 入学 37年3月 東京高等師範学校 卒業 38年 清国山師範清南師範学校にて教員 39年7月 逝去(29歳) ※現代の誕生日表記では28</p>  <p>※上段の石から2人目が中村氏</p>
<h3>那智勝浦町内サッカー関連施設</h3> <p>【顕彰碑】 氏の出生である木戸宮地区にあるJR那智駅南口、顕彰碑を設置しています。</p>  <p>【なでしこジャパン記念モニュメント】 那智山に接する大門運動場にてなでしこジャパンの2011年FIFA女子ワールドカップ優勝とロンドンオリンピックサッカーメダルを記念して、顕彰、選手の写真、手紙が刻まれた「なでしこジャパン記念モニュメント」2011年のメンバー生身の複製(手型)が並びます。 【寄与者名】(監督) 藤田修博、高橋繁雄、前田水伸、安藤剛、松島利、山崎のぞみ、宮崎みや、津野泰、丸山由美子、石黒美奈、宇津木優美、上尾野辺のくみ、近藤中がら、矢野舞子、辻田のり美、大野悠、大庭利(本妻)優希、海部あゆみ、篠口夢、中野明日香、堀北美穂 モニュメントには、熊野の守り神で日本サッカー協会のエンブレムにも刻み込まれている「ササガラス」が顕彰されています。</p>  <p>大会パンフレットより</p>	<h3>【那智勝浦町体育文化会館ロビー展示】</h3> <p>那智勝浦町体育文化会館には「名誉町民コーナー」及び「サッカー関係展示コーナー」を設置。名誉町民コーナーについては、中村覚之助氏と西田博平氏(昭和63年11月5日逝去)の顕彰を紹介しています。サッカー関係展示コーナーについては、AFCアジアカップカタール2011優勝カッププレジカや写真、2011年女子ワールドカップなどでしこジャパン優勝等賞状を展示しています。</p>  <p>【顕彰のまち】</p>  <p>「顕彰のまち」にも中村覚之助氏の紹介やなでしこジャパン選手サイン入りユニフォーム、サイン入りボール等の展示を行っています。</p>

開会式の様子です。女子チームはトルベリーノ・ガールズ。このクラブからはトルベリーノ・クロシオFCという男子チームも出ています。宇久井スポーツ少年団と那智勝浦FCが那智勝浦町。少し離れた串本町から2チーム、古座サッカー少年団と串本JFCが参加しています。新宮サッカースポーツ少年団からはU-11とU-12の2チームが出場です。

第1試合は9:30キックオフ。宇久井对新宮U-12。半面での8人制サッカーはJFAが推奨しているスタイルで、15分の前後半です。グラウンドは2面あります。隣のグラウンドの第2試合、トルベリーノと串本の試合です。奥に見えるのが那智勝浦町体育文化会館です。南紀の那智勝浦で、子どもたちが芝生の上で生き生きとサッカーを楽しんでいます。こちらも1日半、楽しむことができました。



初日の午前中はサッカーの試合を見て、お昼ごろには会場を離れて統太郎さん宅へ。まず覚之助のお墓参りに行ってきました。節目ごとにお墓参りをさせていただいています。

昼食をとって、統太郎さん次男の寿夫さんの車で、熊野三山の残り二山、本宮大社と速玉大社めぐりに出かけました。

その前にわたらせ温泉に立ち寄ります。いい湯でした。八咫鳥プリンもおいしかったですね。お土産は八咫鳥だらけです。

熊野本宮大社に着きました。急な階段を80過ぎの統太郎さんもてくてく歩いて登られました。

熊野三山のヤタガラスは、本宮、那智、速玉とそれぞれロゴが違うんですね。そして



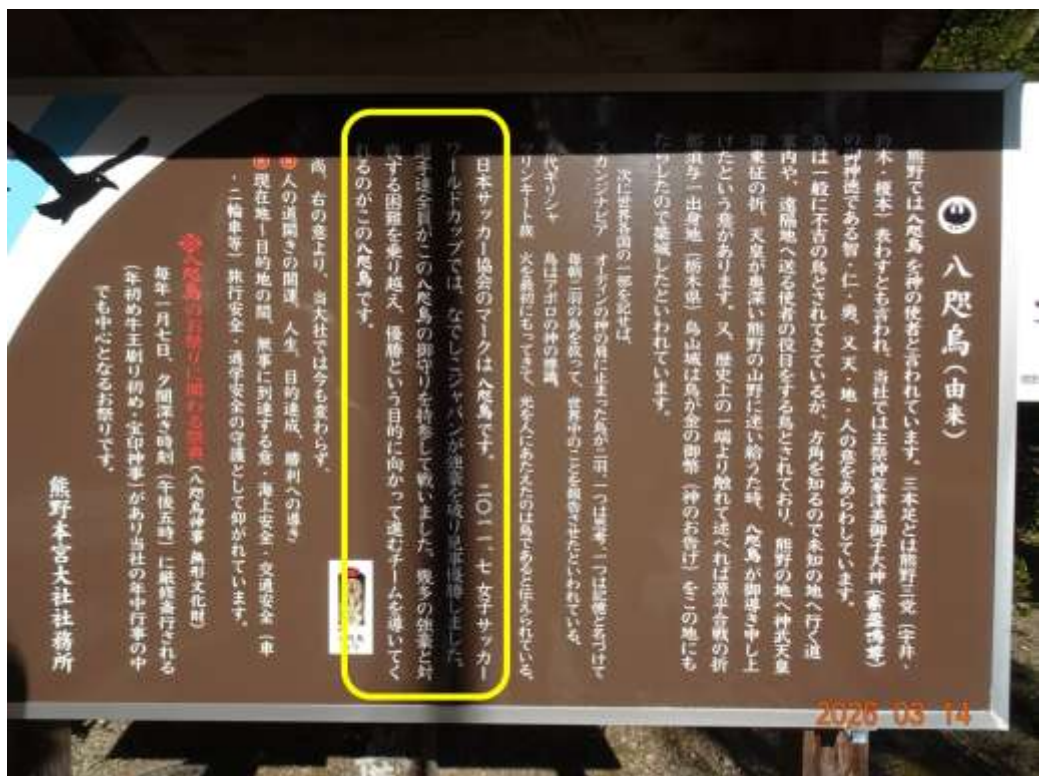
隣にある案内板「八咫鳥（由来）」には、「日本サッカー協会のマークは八咫鳥です」の記述があります。そして2011年7月の女子ワールドカップでなでしこジャパンが優勝したことを取り上げ、「優勝という目的に向かって進むチームを導いてくれるのがこの八咫鳥です」と書かれています。

私がここを最初に訪れたのは2009年3月で、この地で最初に行われたシンポジウムのときでした。関係者一同で熊野三山の公式参拝をさせていただいたときの写真があります。案内板の表記がいまと異なります。「最近、スポーツのサッカーが青少年、若い人々に人気を博している」。サッカーの前にわざわざ「スポーツの」を入れないといけないほど、メジャーではなかったのでしょうか。続けて、「日本サッカー協会のマークは八咫鳥です（明治時代にサッカーが日本に始まった。この頃から使用されているそうです）。サッカー協会のマークに使用された意味は、考えるに目的とする相手チームのゴールをはずすことなくきちんととらえて納めるという意ではないでしょうか」と記されています。

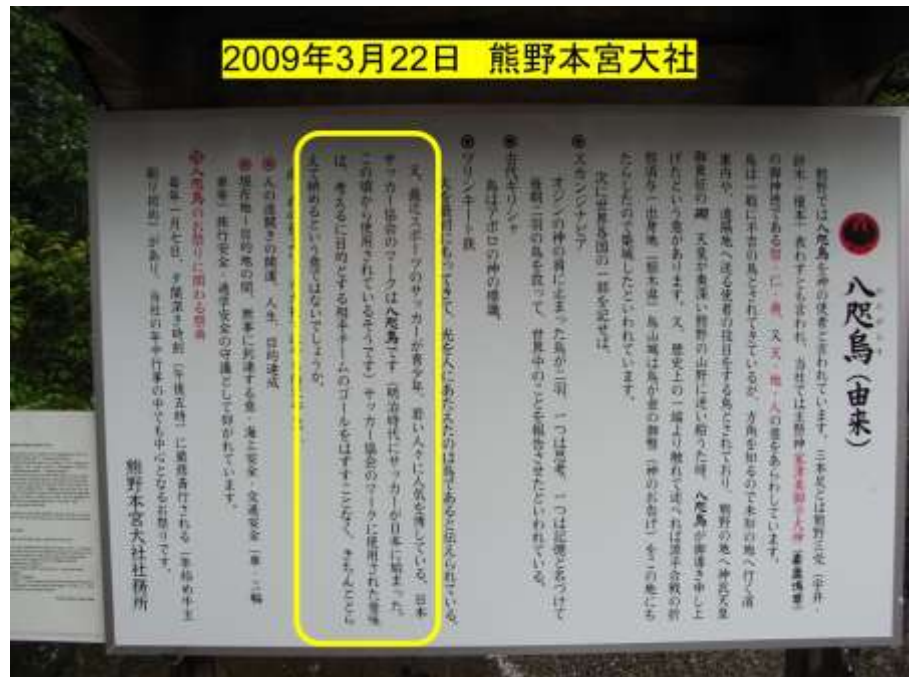
最初の覚之助シンポジウムが開かれたころの案内板です。いまの案内板との表現の違いは興味深いですね。

その後の調査でわかってきたことと依然としてわからないことがあります。各案内板はわかったことを元に書かれています。ところが、ところどころ想像も含めて表記されていることがわかります。

熊野本宮大社には八咫鳥のポストまであります。三



社のうち、本宮がもっとも商
売上手というか、いろんな見
せ方をしているなという印象
を持ちました。



熊野川沿いに下界に降りて来て、ラストは熊野速玉大社です。ここには八咫鳥神社があります。夜は「吾作」にて那智勝浦町の方々と懇親会でした。美味しかったし、有意義な話ことができました。



3. 大会 2 日目 (3 月 15 日)

1次ラウンドの総当たり戦が終わり、大会2日目は上位と下位に分かれてノックアウト方式の準決勝、決勝、3位決定戦です。下位グループの準決勝では那智勝浦町同士の対戦となりました。宇久井スポーツ少年団と那智勝浦FCです。下位グループのもう一つの準決勝は、新宮U-11とトルベリーノ・ガールズです。新宮U-11の8番の5年生の子が、小柄でスキルフルで、見ていてとても楽しみな子だと思いました。サッカー小僧って感じですね。



トルベリーノ・ガールズにも、サッカーが好きで好きでたまらないという感じの女の子がいました。ガールズの試合に出場したすぐあとのトルベリーノ・クロシオFC、男子の試合にも出場し、活躍していました。

上位グループの3位決定戦、串本町同士の対戦はPK戦にもつれ込みます。串本JFCと古座サッカー少年団です、改めて調べてみると、串本JFCは2021年度の全国大会、JFA全日本U-12選手権大会に和歌山県代表で出場してるんですね。それと、これも中村さんにお聞きした話ですが、陸上の女子800メートル日本記録保持者の久保凜さん、サッカー日本代表の久保健英君のいとこの方ですが、この方が小学生時代に串本ジュニアFCでサッカーもやっていたそうです。いまは大阪の高校で陸上に専念しているそうです。

中村さん、ちょっと補足いただけますか。

中村：久保健英さん、いまスペインで活躍されてますが、その方のいとこの久保凜さんは、小学生の時にスポーツ少年団のサッカーの方で活躍されていました。ちょうど私の娘も同世代で、1学年下になるんですけど、同じようにサッカーしてましたので、実際にプレーしているところを僕も見ることがあります。いまは陸上の方で大活躍されてます。以前は久保健英選手のいとこと表現されてましたけど、いまは陸上の久保凜さんということで大活躍されています。

僕は串本JFCのユニフォームがずっと気になってたんですけど、胸に「おぎき〜」と書いてあるんです。最初は個人名を胸に入れてるのかなと思ったけど、聞いてみたらこのクラブを地元でスポンサーしてくれている会社だそうです。地元のクラブを地元の企業がサポートしている姿がこういうところでも見えるのだなと思いました。

上位グループの決勝です。新宮U-12対トルベリーノ。右上のトルベリーノの向かって左端の女の子が、トルベリーノ・ガールズにも男子の試合にも出て、元気一杯で活躍していました。

試合は白熱した好ゲームでしたが、2-0で新宮U-12が優勝です。第1回も新宮FCが優勝したので、2連覇ということになります。



左端の木製のトロフィーが素晴らしいですね。ボールと下の台が外せるようになっていて、いろいろ使い勝手があります。

表彰式です、堀町長から、優勝した新宮サッカースポーツ少年団 U-12 にトロフィーと賞状が授与されています。準優勝のトルベリーノ・クロシオ FC、下位トーナメント優勝の宇久井スポーツ少年団にもトロフィーと賞状が渡されます。

そして本日も参加されている谷さんから、MVP と MIP が授与されました。

谷さん、MVP、MIP に何が渡されたのかなど、少し補足していただけますか。

谷 : MVP と MIP の方には日本代表のユニフォームを寄贈させていただきました。決勝の両チームからです。「選んでもいいですよ」と中村さんたち皆さんが言うてくださったので、プレーのよし悪しとか、ボールがある時とない時とか、けっこう真剣に見て決めました。MVP の新宮 U-12 の 8 番は、1 点目を決めた選手です。体格的には小柄ですが動きがよく、声をかけたりチームの潤滑油になっていたと思います。10 番の選手が非常に技術のある選手だったので、彼を生かすためにうまく動いてたなというところで選ばさせていただきました。

新宮 U-12 が優勝して優勢にゲームを進めていましたが、準優勝チームから MIP を選ぶとなると、どうしてもディフェンスの選手、最後に踏ん張って何とか阻止するということで目立っていたトルベリーノのディフェンダーを選ばさせていただきました。名前が出た時に「え、俺かよ」みたいな表情で、みんなも驚いていたようです。他の試合は見ていませんが、決勝だと彼がディフェンスラインを統率していて良かったなというところです。

日本代表になれるように、努力して上を目指して頑張ってくれたらいいなという願いも込めて、日本代表のユニフォームをお渡ししました。

ありがとうございます。それと、各チーム 1 名ずつ、チームの MVP というのもありました。これもすごくいいなと思いました。

保護者の方がたくさん来ておられるのがわかると思います。普段からお子さんの送り迎えをされ、大会では皆さんで熱心に応援し、熱くささえておられるのでしょう。天気も良く、芝生の上で、思う存分サッカーを楽しむ子どもたちと熱心にささえる親の姿をみて、「来てよかったな」と心から思った次第です。

講評ということで、少し話をさせていただきました。「来てよかった」ということをまず述べました。そして小学生プレーヤーには「サッカーは点の取り合い。ゴールしたら思い切りよろこぼう！」ということと、「試合後は握手をしよう！ 友だちが増えるよ」ということを伝えました。そして中村覚之助については、「英語の本をもとに日本で最初のサッカーの本を著して練習を開始した。けどいまと違って映像が見られるわけでもなく、サッカーがどういうスポーツかはわからない。それでも



ソウゾウリョクを働かせてやってみた。皆さんも、わからないことであっても、ソウゾウリョク（想像力・創造力）を働かせて、いろんなことに取り組んでください」と伝えました。

大会の結果は次のとおりです。

第2回 「中村覚之助杯」 大会1日目<3月14日(土)>

予選リーグ・ブロック別組み合わせ

Aブロック

№	チ	ー	ム	名
1	宇	久	井	ス
2	新	宮	サ	ッカ
3	ト	ル	ベ	リ
4	古	庄	サ	ッカ

Bブロック

№	チ	ー	ム	名
1	新	宮	サ	ッカ
2	新	宮	サ	ッカ
3	ト	ル	ベ	リ
4	串	本	サ	ッカ

★予選リーグ タイムスケジュール

時 間	Aコート (体育館側)		Bコート (バスケット側)	
9:00	開会式			
9:30	宇久井 0-5	新宮サッカ 0-3	新宮U11	
10:15	ガールズ 1-4	古庄 トルベリノ 2-1	串本	
11:00	宇久井 1-1	ガールズ 勝浦 0-6	トルベリノ	
11:45	新宮U12 5-1	古庄 新宮U11 0-4	串本	
13:30	宇久井 1-3	古庄 勝浦 0-11	串本	
14:15	新宮U12 8-0	ガールズ 新宮U11 0-3	トルベリノ	

★予選リーグ 順位表

チーム名	宇久井	ガールズ	古庄	勝浦	串本	引当	勝点	得失点	順位
宇久井	●0-5	△1-1	●0-3	○2	1	1	-7	3	
新宮U12	○5-0	○5-0	○5-1	3	0	0	4	+17	1
ガールズ	△1-1	●0-6	●1-4	○2	1	1	-11	4	
古庄	○3-0	●1-5	○4-1	2	1	0	6	+1	2

チーム名	勝浦	新宮U11	トルベリノ	串本	勝浦	引当	勝点	得失点	順位
勝浦	●0-3	●0-6	●0-1	○3	0	0	-2	4	
新宮U11	○3-0	●0-3	●0-4	1	2	0	3	-4	3
トルベリノ	○6-0	○3-0	○5-1	3	0	1	4	+10	1
串本	○1-0	○4-0	●1-2	2	1	0	6	+4	2

第2回 「中村覚之助杯」 大会2日目<3月15日(日)>

★上位トーナメント/下位トーナメント タイムスケジュール

№	時 間	Aコート (体育館側)		Bコート (バスケット側)	
①	9:00	宇久井 3-0	勝浦	新宮U11 1-2	ガールズ
②	9:45	新宮U12 0-1	串本	トルベリノ 3-1	古庄
③	10:30	串本 2-2	古庄	勝浦 0-4	新宮U11
④	11:15	新宮U12 2-0	トルベリノ	宇久井 5-0	ガールズ
	12:00	表彰式			

★上位トーナメント 組み合わせ

★下位トーナメント 組み合わせ

大会はここで終わり。午後は希望者対象の少年サッカー教室があったようですが、私は13:46 紀伊勝浦駅発の特急「くろしお」で大阪の実家へ向かいます。17:46着。ちょうど4時間ですね。

大阪では、サ高住にいる父の相手など、家のことをいろいろやっていましたが、3月20日にビッグイベントがありました。大阪府立三島高校8期生の同窓会です。みな還暦を過ぎて仕事もボチボチ一段落する世代です。170人も集まったけど同級生は450人ぐらいいます。はっきり言ってほとんど初対面と言っていいぐらいですが、グラウンドにいた人たちのことはよく覚えています。サッカー部やラグビー部など、懐かしい仲間と再会できました。教室の記憶はほとんどありません。高校生時代の記憶なんて所詮そんなものかなと思いました。

翌3月21日に大阪を離れ、筑波へ行きました。筑波大学蹴球部のインカレ優勝祝勝会兼創部130周年記念パーティーです。現役部員200人とOB、クラブを支えてくれるスポンサーの方々、地域の方々、Jクラブのスカウトなど、盛大なパーティーでした。

パーティー会場の入口には、インカレ優勝のフラッグや賞状、記念誌などの展示コーナーもありましたが、見てください。第2回中村覚之助杯のパンフレットを置かせてもらいました。さらに覚之助が著した日本で最初のサッカー専門書『アツンシエーション・フットボール』の復刻版も。節目ごとにいろんな人たちに紹介しているところです。

今回の記念式典では、小井土正亮監督がスライドを用いて、我が部の歴史、とくに中村覚之助のことも紹介してくれました。

小井土監督、大津高校の平岡和徳さん、JFA 前会長の田嶋幸三さん、元日本代表の羽生直剛さんのトークセッションもありました。新ユニフォームのお披露目もありました。旅の終わりは、OBの一人として参加したこのパーティでした。

ということで、中村覚之助杯と一連のツアー報告はここまでです。

ここまでで質問や補足があればお願いします。赤阪さん、熊澤さん、いかがですか。本当は来たかったと思うけど。

4. ディスカッション

赤阪：旅行記ありがとうございました。熊澤さんとともに懐かしく見ておりました。ちなみに「吾作」は美味すぎて、中村さんたちと一緒にいった次の日の夜も通いました。それくらい「吾作」は美味しかったです。

『アツシエーション・フットボール』は、イギリスのオルコックさんの本を訳して日本で最初にフットボールを伝えた本ということです。

この本の中に、レフェリーのことが権威者として書かれています。一方で、1909年と1920年に『フットボール』という本が、本格的な技術書として出ています。これも東京高等師範学校の皆さんがまとめたもので、フットボールの技術的なところやルールに関するところを詳しく書いた本となっています。1921年に大日本蹴球協会ができ、シルバーカップとともに全日本選手権が始まりますが、その前に『アツシエーション・フットボール』と『フットボール』という2冊が、日本サッカーの黎明期を支えた、もしくは外来スポーツとしてのサッカーを受容してきたということです。私自身、いま審判の観点でみていますので、中村覚之助が訳した『アツシエーション・フットボール』と、後輩たちが技術書としてまとめた『フットボール』によってサッカーが全国に広がっていき、その後大日本蹴球協会ができるというあたりをみています。ちょっとご紹介させていただきました。

熊澤さん、続いてよろしく願いいたします。

熊澤：僕も大変懐かしく思いながら聞かせていただきました。できれば次回以降、うちのゼミ生を連れて大会を見たり、何らかのお手伝いできたらと思っています。お聞きしたかったのは、今回ですと



2026年3月21日(土) ホテル日航つくば

筑波大学体育・スポーツ局 <https://www.tsukubaowls.com/post/260321-2>

運営はどなたが担ってらっしゃったのか。町の方々なのか保護者の方々なのか。そのあたりはいかがでしょう。

中塚：これは中村さんからお願いします。

中村：はい。主催が教育委員会ですので、基本的には私どもの方でやっております。協力という形でスポーツ少年団の方々にお願いしております。

熊澤：わかりました。うちの学生がもし何かできることがあればということで、今後とも話し合いを続けさせていただけたらと思います。

あと、先ほど赤阪先生が紹介してくださった『アソシエーション・フットボール』ですけど、確か国会図書館のデジタルコレクションで、特別な手続きがなくても、おそらくどなたでもネット環境さえあれば読めたと思うので、興味ある方がいらっしゃいましたら見ていただければと思います。

僕はアメリカンフットボールの絡みで今回このようなご依頼いただいておりますので、ご紹介させていただきます。『アソシエーション・フットボール』は1903年に出されたことをご紹介いただきましたが、なぜ覚之助がアメフトをやったかという、実はその前年に、そもそもフットボールってどんなスポーツなのかを模索している時に、アメリカ帰りの先生に「フットボール知ってますか？」と質問して、「知ってるよ、こんなんだよ、教えてあげるよ」と言って教えてもらったところ、サッカーではなくアメフトだったという話です。ひょんな偶然が重なって、現時点では、日本で最初にアメフトをやったのも、実は中村覚之助だったというような経緯があります。

中塚：ありがとうございます。後ほどそのスライドも出てきます。

大会について補足すると、レフェリーは一人審判制で、試合をしている当事者同士で前半と後半で交代しながらやっている感じだったですね。決勝戦だけは、どこかのチームの監督さんだったと思うけど、審判服を着て審判をされていたと記憶していますが。

中村：はい。那智勝浦FCの指導者で、雰囲気を出すのに審判服を着てもらいました。

中塚：JFA主催のいわゆる公式大会と違って、アットホームな緩やかな運営だったと思います。冒頭にも言いましたが、複数チームに登録する、いわゆる二重登録も認められています。まあいいじゃないのというような感じで、皆が大らかに受け入れながらやっていたのが印象的です。

あと、インフルエンザが流行っていたと聞きましたが。

中村：そうですね。今年は年末と2月ぐらいに流行ったんですけど、それが収まりました。けどまた3月のところでも再度、違うタイプが流行ったりしていました。

中塚：それで、予定していたけど来られなかった子たちも何人かいたのだという話も聞きました。

途中でも言いましたが、時間をかけてここまで行って本当によかったなと思います。こんなにいい天気で、いい芝生のグラウンドで、子どもたちが思う存分サッカーを楽しんでるところに触れられて。親御さんが一所懸命ささえてくれているのもすごくいいなと感じておりました。

赤阪：もともと私も学生を連れて、審判協力と運営協力と、あとはもしSNSとかで出すのであれば、学生たちは事前事後の写真とかショート動画とか作るのが上手なんです。

熊澤先生のゼミ生や、今日参加されている新谷さんなど、いろんな学生たちが交流できるというですね。私も経営学部所属なので、学生たちが大きな意味でのマネジメントとか、市の行政の皆様がスポーツとどう関わっているのか学びに行けたらと思います。第3回以降も楽しみにしています。

中村：よろしくお願ひします。

II. 再確認：中村覚之助とは（中塚義実）

1. 中村覚之助のメジャー化

「再確認」としてはありますが、再確認になる人もいれば初見の人もいるかもしれません。

去年5月、都内で「中村覚之助の“メジャー化”のために」の作戦会議を行いました。そのときに用意したレジュメです。メジャー化の「あゆみ」を整理したのですが、2002年11月27日に、和歌山文化協会から中村覚之助が「日本サッカー生みの親」として、第53回先覚文化功労者顕彰を受賞したことも書き加えました。

私が覚之助のことを知ったのは、2006年1月の日本フットボール

那智勝浦町議会関係者とのMTG
中村覚之助の「メジャー化」のために

日時：2025（令和7）年5月27日（火）17：30すぎからMTG ⇒ 18：00から懇話会
会場：中塚料理「新橋亭」 <https://www.shinkyuei.com/> 港区新橋2-4-2 TEL：03-3580-2211
参加者：那智勝浦町：曾根和仁議員、城本和男副議長、寺本尚文事務局長
サッカー史研究者：赤松悠（筑波大学）、関口雄哉（日本体育大学）※やっぱりサッカー審判員
NPOサロン2002理事長日本ヤタガラス協会副会長：中塚義実

**平成14（2002）年11月27日 和歌山文化協会
第53回 先覚文化功労者顕彰
中村覚之助「日本サッカー生みの親」**

I. 中村覚之助の「メジャー化」のあゆみ

1. 日本フットボール学会における研究発表
3rd Congress（大東文化大学、2006年1月14日・15日）にて篠田昭八郎氏より発表あり（中塚が座長を務める）
⇒ 牛木素吉郎氏が2007年の4th Congressでの篠田氏の発表を聞いて初めて知ったというコメントあり

2. 日本サッカー史シンポジウム「熊野の中村覚之助—日本サッカーのバイオニア」

1) 日本サッカー史シンポジウム「中村覚之助と日本サッカーの夜明け」
2009（平成21）年3月21日（土）15：00～17：00 那智勝浦町体育文化会館 2F 大集会室
森岡理右（茗友SC会長）、牛木素吉郎（ジャーナリスト）、山本殖生（熊野三山協議会幹事）、中塚義実

2) 東京シンポジウム「日本サッカーの始祖 熊野の中村覚之助」
2010（平成22）年2月6日（土）13：30～16：00 国立オリンピック記念青少年総合センター
開会挨拶：寺本真一（那智勝浦町長）、九鬼琴隆（熊野本宮大社宮司）／開会挨拶：森岡理右
講演：山本殖生／シンポジスト：中村統太郎、真田久（筑波大学）、加藤弘（和歌山大学）、中塚義実

学会が最初です。東京教育大の大先輩、岐阜大学の篠田昭八郎さんが東京高師蹴球部初代主将・中村覚之助について発表されたときです。私はそのセッションの座長をしていましたが、その時点では覚之助のことを何も知りませんでした。というより、そのころ覚之助のことを知っていた人はほとんどいなかったと思います。篠田さんは「日本サッカー事始め」というシリーズで、日本フットボール学会で毎年発表されていましたが、このときは中村覚之助を取り上げた研究でした。母校蹴球部のことなのに何も知らず、座長のくせに私ばかり質問してしまう妙な進行になってしまいました。

翌年の日本フットボール学会は大阪でありました。私は出られなかったのですが、そこでも篠田さんが覚之助について発表され、それをジャーナリストの牛木素吉郎さんが聞いて大変興味を持ち、そこから日本サッカー史研究会でも取り上げるようになりました。

そして2009年3月に、「日本サッカー史シンポジウム」を那智勝浦町体育文化会館で開きました。「中村覚之助と日本サッカーの夜明け」と題するシンポジウムで、夜はホテル浦島で懇親会。牛木素吉郎さん、筑波大学蹴球部の森岡理右元部長、現日本ヤタガラス協会長の山本殖生さんが登壇され、私が進行役を務めました。地元の方も大勢参加され、郷土の偉人のことが初めて地元で語られたという印象でした。

翌2010年2月は東京でシンポジウムを開きました。ここでも進行役は私で、中村統太郎さん、スポーツ史研究の大家である真田久さんが登壇されました。和歌山大学の加藤弘さんは東京教育大サッカ

一部 OB で、大学のプロジェクトで中村覚之助の調査報告をされました。実は覚之助は、和歌山師範を出て地元の小学校の先生になり、その後、高等師範で学び直すのですが、和歌山大のプロジェクトは卒業生の足跡を訪ねるもので、中国の済南まで、統太郎さんと一緒に行って調べてられました。

このころまでは、覚之助をめぐる動きは非常に活発でしたが、その後、一時停滞します。

日本ヤタガラス協会が 2019 年に設立され、私は設立総会で「ヤタガラスに託す思いー日本サッカーのあゆみとともに」と題して講演をさせていただきました。しかしコロナ禍で活動は中断します。

2020 年 1 月 26 日の「サッカー×アートー日本サッカーのシンボルをめぐって」のシンポジウムにも触れておきます。筑波大学と東京芸術大学の共催です。筑波大の永田学長、東京芸大美術学部長で現学長の日比野克彦氏が登壇されました。筑波大学芸術専門学群長をされていた太田圭さんが中心になって企画されたシンポジウムです。この方も東京芸大・美術の出身で、日比野さんとは先輩・後輩の間柄。筑波大学蹴球部副部長でもありました。

「日本サッカーのシンボル」でなぜ筑波大と東京芸大なのかというと、JFA が決めたときの協会役員が東京高師の内野台嶺さん、実際にデザインされたのが東京美術学校、いまの東京芸大美術学部卒業の日名子実三さんなのです。そういうご縁で筑波大学と東京芸大のコラボ企画が実現したということです。那智勝浦町の堀順一郎町長も来られました。ヤタガラス協会の山本会長も事務局の在仲さんもいらっしやいます。D.クラマーを日本に紹介された成田十次郎先生も来られました。

実り多いシンポジウムでした。登壇者の話をまとめて出版する話もありましたが、シンポジウム直後からコロナ禍に突入し、あらゆることがストップしました。出版の話もなくなりました。

その翌年、コロナの影響がまだ大きかった 2021 年 11 月。和歌山県が国民文化祭の当番県となり、「紀の国わかやま文化祭」で自治体ごとに文化的な催しを企画しました。那智勝浦町では中村覚之助の名誉町民となる式典が開かれました。私もそこで「日本サッカーのはじまりと中村覚之助ーJFA100 周年にあたって」と題する講演をさせていただきました。

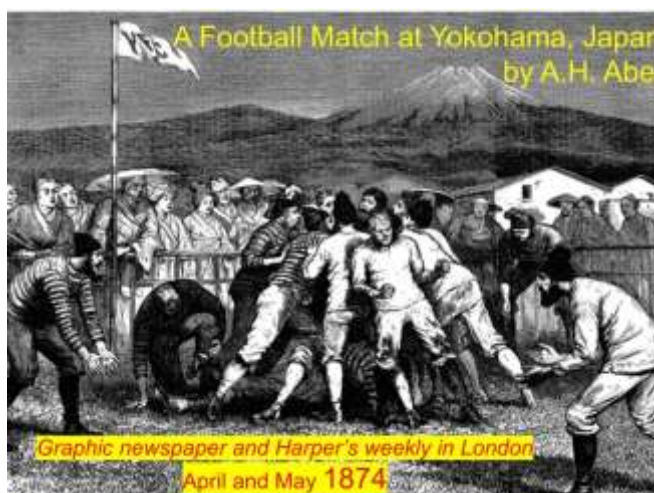
その後はほぼ毎年、日本ヤタガラス協会の総会にあわせて「日本サッカーの始まりと中村覚之助」シリーズで講演させてもらっています。サブタイトルを変えながら、2024 年度は「1904 年 2 月 6 日の東京高師対 YAAC 戦を中心に」、2025 年度は「大戦前のサッカー界を探る」です。

2. 日本サッカーの“始祖”中村覚之助と東京高師の功績

ここからは、日本にフットボールが入ってきた頃からを確認しておきたいと思います。

これは有名な絵ですね。外人さんがおしくらまんじゅうをしている中にボールがあるのでしょう。「ラグビーをやっているところだ」ということのように、ラグビーともサッカーともつかないゲームを外人さんがやっていて、当時の日本人が物珍しそうに見ている姿です。後方に富士山が見え、Yokohama Football Club の旗があります。横浜や神戸などの外国人居留地で近代スポーツが外国人によって為され、クラブができる。明治初期のすがたです。

また軍人や教師によって近代スポーツが日本人に紹介されます。ベースボールはアメリカから、フットボールは英国から。



1873年の「サッカー伝来」というのは、築地にあった海軍兵学寮の教官として来日したダグラスさんと部下33名がボールを蹴ったという話ですが、そこからサッカーが普及することはありませんでした。教育制度が整えられたあたりからです。体操の先生を育てるために設置された「体操伝習所」は東京高師体育専修科となり、いまの筑波大学体育専門学群につながります。卒業生が全国に赴任するので、東京高師でやっていたことが全国に広がります。

その学校の校長に嘉納治五郎が着任したのが1893年。柔道の創始者、日本で最初のIOC委員、大日本体育協会設立、留学生受け入れ、数々のことを為された方ですが、東京高等師範学校の校長を長らく務め、スポーツの教育的意義を重視された教育者です。

東京高師の校長は附属学校の校長も兼ねていました。旧制附属中の生徒会である「桐陰会」は部活動の連合組織としてはじまりますが、会長は嘉納校長です。臨海実習も100年前からやっています。大河ドラマ「いだてん」は嘉納校長の時代の東京高師の様子が描かれおもしろかったですが、視聴率はパッとしませんでした。

嘉納校長の下で、高師の学生も附属の生徒たちも活発に過ごしていました。

1896年3月に、東京高師で「運動会」が設立されます。高師の卒業生は、血気盛んな若者が通う全国各地の旧制中学校や師範学校に赴任します。だから座学だけでは不十分。運動部に入ってしっかり体を動かさなさいということで、8つの部を設けました。その中の一つがフットボール部であり、このときを筑波大学蹴球部の創部としています。1899年創設のACミランやバルセロナよりも歴史があるということ、先日の祝賀会で小井土監督が語ってくれました。

20世紀に入った1901年には、寄宿舎や談話部もまとめて「校友会」に改組されます。このあたりからメンバーシップを伴う、いわゆる部活動になってくるわけです。

1902年、坪井玄道が欧米視察から帰国します。フットボールに関する4冊の本を持ち帰り、中村覚之助たちが訳し、自分たちなりの解釈を加えてできたのが『アソシエーション・フットボール』です。

1903年4月、大塚窪町、いまの茗荷谷駅前に移転します。移転するのはいいけれど、「新運動場の予定地は雑木雑草に埋められて」いました。それを「中村君以下部員一同整地に努め、

日本へのフットボールの伝来

- ◆外国人居留地に“クラブ”が生まれる
1868(明治元)年 YC&AC(横浜外人クラブ)
1870(明治3)年 KR&AC(神戸外人クラブ)
- ◆軍人や教師によって近代スポーツが紹介
1872(明治5)年 野球伝来
1873(明治6)年 サッカー伝来
- ◆教育制度が整えられ、「体操」が導入される
「体操伝習所」(1878~1885) 「遊戯」紹介
1886 東京高師体育専修科に改組
1893 東京高師に嘉納治五郎校長着任!

1896(明治29)年3月「運動会」設立

柔道部、撃剣及び銃槍部、弓技部、器械体操部、ローンテニス部、フットボール部、ベースボール部、自転車部の八部に分ち、生徒は其の一部若しくは数部に入りて、毎日三十分以上必ず所属の部について運動をすること

ACミラン・FCバルセロナ(ともに1899年創設)より歴史あり!

1901(明治34)年10月「校友会」に改組

1902(明治35)年4月 坪井玄道が欧米視察から帰国

1903(明治36)年4月 大塚窪町に移転

39

1903(明治36)年4月 大塚へ移転

「全生徒は35年5月、一足先にできた寄宿舎に入舎して、そこから1年間お茶の水に通った。大塚の新運動場の予定地は雑木雑草に埋められていたが、**中村君以下部員一同整地に努め、蹴球のフィールドに棕櫚縄(しゅろなわ)を張りめぐらして石灰線の代用としたり、ゴールを建てたりした。一方中村君から蹴球に関する運動規約を習って実地訓練を開始した**」(堀桑吉氏の寄稿より)

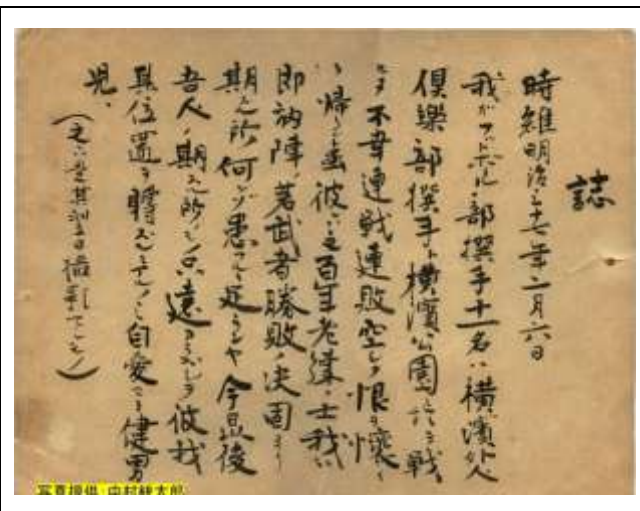
蹴球のフィールドに棕櫚縄を張りめぐらして石灰線の代用としたり、ゴールを建てたりした。一方、中村君から蹴球に関する運動規約を習って実地訓練を開始した」。この「中村君」が覚之助です。

英語の文献を訳して書籍にした中村君が指導する形です。この、フットボールの聖地と呼べる場所が、いまの筑波大学東京キャンパスの横、文京スポーツセンター前のグラウンドです。しかし「この自由広場ではゴルフ、サッカー、野球等の球技はやめましょう」となっています。

中村覚之助と、日本初のサッカー専門書です。

専門書をもとに練習をするのですが、実際にサッカーをやっているところを見たことはありません。そこで、当時日本でサッカーをやっていた人たち、つまり外国人に試合を申し込みます。横浜外人倶楽部、いまのYC&ACです。日露戦争開戦直前に行われた試合は0-9のボロ負けでした。しかしここから始まるのだということが、写真の裏面に覚之助の字で書かれた文章に示されています。

この写真が統太郎さんのご自宅で見つかったのが始まりです。



覚之助の略歴です。1878年に那智勝浦町で生まれます。和歌山師範を卒業し、地元の宇久井高等小学校で一旦は先生になりますが、優秀な覚之助は東京へ出て勉強します。22歳で東京高師博物科へ入学。そして1903年に『アソシエーション・フットボール』を出版。翌年2月のYC&AC戦のとき、覚之助は4年生で卒業間近でした。

卒業後は府立第一高等女学校、いまの白鷗高校に着任し、1年後に清国山東省済南師範学校に着任します。この学校に、先ほどの和歌山大学の加藤先生と中村統太郎さんが訪問されたということです。

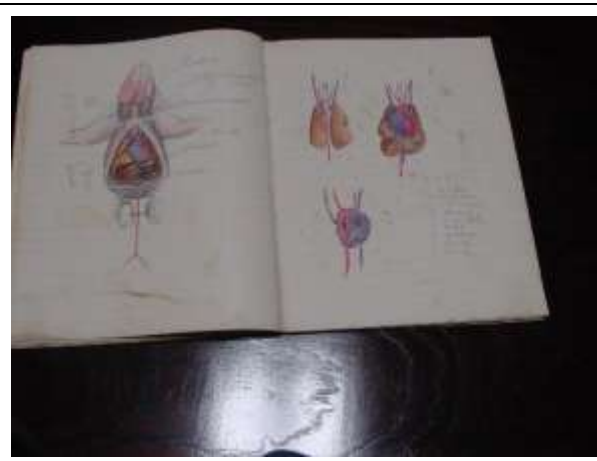
しかし体を壊され、若くして亡くなってしまいます。28歳でした。

中村覚之助の略歴

- ・明治11(1878)年5月 和歌山県那智勝浦町で生まれる
- ・明治32(1899)年3月 和歌山師範学校卒業
4月 宇久井高等小学校にて教師になる
- ・明治33(1900)年4月 高等師範学校博物科入学(22歳)
- ・明治36(1903)年10月 『アソシエーション・フットボール』出版
※東京高師 大塚窪町に移転(1903年4月)
- ・明治37(1904)年2月6日 東京高師vsYC&AC
3月 東京高等師範学校博物科卒業
4月 東京府立第一高等女学校(現白鷗高)着任
- ・明治38(1905)年 清国山東省済南師範学校に着任
- ・明治39(1906)年7月3日 逝去(28歳)

赤阪さん、熊澤さんも行かれたと思いますが、2009年の最初の訪問時に、覚之助の生家を訪ねました。衣装ケースの中に120年も昔の大学生の遺品が詰まっています。

覚之助のノートです。私は高校教師時代も非常勤で教えている大学でも、授業でこれを見せるようにしています。明治期の若者がこんなにも勉強していたのだということです。全部手書きです。カエルの解剖図でしょうか。こんな感じで、すべてのノートが綴られています。



卒業証書です。「和歌山県平民 中村覚之助」「校長 嘉納治五郎」とあります。

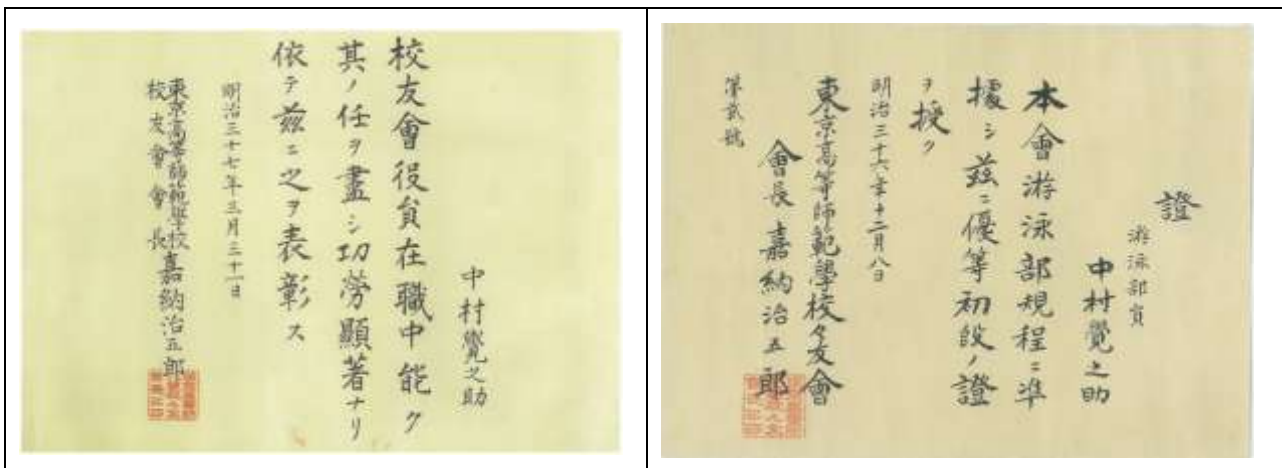
校友会の役員として活躍したということ、蹴球部だけでなく遊泳部、いわゆる水泳部でも活躍したこともわかります。那智勝浦の海辺で育ち、泳ぎも得意だったのででしょう。嘉納治五郎は水泳も段位制を導入しようとしていました。

これも統太郎さんからお聞きした話ですが、当時の日常生活で現金はいりません。しかし都会で勉強するには必要です。覚之助のお兄さんは統太郎さんの祖父にあたる方ですが、この方が、弟や妹

たちが東京で勉強するための現金収入を得るためにオーストラリアに出稼ぎに行っていたということです。洗濯屋さん、クリーニング屋さんをやっていたそうです。せつかく英語圏に兄貴がいるのだから



らと、英語の新聞や雑誌を送ってもらい、どうい方法かは知りませんが、独学で英語を学んだとい
うことです。覚之助はすごいけど、そのお兄さんもすごい方ですよ。



ナポレオンとビスマルクの絵です。絵の才能もおありで
す。

注) 覚之助のノート、資料の写真はすべて中村統太郎宅のも
のを中塚義実が撮影

東京高師の卒業生は、全国の学校に赴
任します。そして全国の師範学校や旧制
中学校にサッカーの種をまきます。「赴
任地にゴールポストを」を合言葉に、東
京高師からサッカーが広がりました。

蹴球部員でなくても、高等師範を卒業
して校長先生になった方々がフットボ
ルを奨励するケースもあります。伊藤長
七は高師で英語を教えていましたが、府
立五中、都立小石川高校の初代校長と
なります。小石川もサッカーが盛んな学校

東京高師の卒業後は全国各地へ！	
明37(1904)	中村 覚之助 → 清国山東省済南府師範学堂
明38(1905)	牧野 信寿 → 広島師範
明39(1906)	堀 桑吉 → 愛知第一師範
明41(1908)	細木 志郎 → 埼玉師範
明42(1909)	内野 台嶺 → 豊島師範 → 東京高師
明42(1909)	落合 秀保 → 滋賀師範
明42(1909)	玉井 幸助 → 御影師範
明44(1911)	松本 寛次 → 広島一中
大 3(1914)	高橋 英治 → 刈谷中
大 9(1920)	北村 春吉 → 静岡師範
大10(1921)	和田 邦五郎 → 東京高師附属中
大13(1924)	後藤 基胤 → 湘南中

赤木愛太郎は明治33(1900)年3月卒

伊藤長七はこの学年

錦織兵三郎、成田千里はこの学年

「いだてん」金栗四三の同期生

「赴任地にゴールポスト！」を合言葉に、東京高師卒業生は全国にサッカーを広めた

となります。錦織兵三郎は志田中、いまの藤枝東の校長です。赤木愛太郎は湘南中の校長です。このように東京高師からサッカーが全国に広がっていったと言えるでしょう。

校友会誌をひもとくと、中村覚之助に関する記事がみられます。「当部の始祖、中村覚之助君は遠く清國にありても、深く我が部の為めを思われ、当部活躍発展の一助として、多数の金員を寄贈せられる」。後輩たちのために寄付してくれたということでしょう。

ところが、その次の号になると、「故中村覚之助君を思ふ」という記事が出ています。

東京高師校友会誌 第10号 (1906年6月?)

○**當部の始祖、中村覚之助君は遠く清國に在りても深く我が部の為めを思はれ、當部活躍発展の一助として、多数の金員を寄贈せられる。**部員一同の感佩(かんぱい)する所なり。(略)一同は不肖なりと雖も、此等の厚志を空うせざらんことを期し、更に邦家の為め、奮勵一番、全力をあげて此の技の研鑽に盡し努力勤勉以て其効果を全うからしめんことを期す。

○**近来各種の學校に、この技の盛に行はれんとする傾向あるは、邦家為め、吾人は双手をあげて之を祝するものなり。**

東京高師校友会誌 第11号 (1906年10月?)

○青山師範よりの競技法教授依頼

○本科一年対本科二三年マッチ

○打ち合わせ茶話会

～十月十日打ち合わせ茶話会を有朋館に開きぬ。部員集まるもの五十餘名、部長坪井先生は特に臨席せられて、歐米に於けるフットボールの状況等に就て談話ありたり～

○本科一年文科、理科対抗マッチ

○故中村覚之助君を想ふ

七月九日我が蹴球部創設者中村覚之助君の訃報に接せり。君は明治三十七年三月本科博物科を卒業し、清國山東省済南府師範學堂に教鞭を執られしが、病を得、夏季休暇を利用して、故國に帰り療養せむとし、六月二十八日神戸に着したりしが、～

東京高師校友会誌 第11号 (1906年10月?)

～六月二十八日神戸に着したりしが、七月三日病遂に革まり同夜、溘然(こうぜん)不帰の客となられたり。吾部は君の過去に於ける功勞を思ひて、実に悼惜に堪へざるなり。吾部の創設や全く君の力によれり。

吾部の名にて出版せられし『アソシエーション・フットボール』は實に君が自ら筆を執られしものなり。当時我國に於てフットボールの智識を有するものなく、依る可き書も稀なりしを、奮然此學に出でられし熱心思ふべし。爾來瞬時も我が部を念頭より去らず、或は多大の金員を贈り、其他種々の方法を以て、選手を指導し奨励せられ、常に吾部の為にのみ謀られたりしが、此度はからずも其訃音に接しぬ。然れども我等は信ず、君の靈は永久に吾部の護身となりて指導せらるべきを。吾等は君が生前の功勞を追想し、其遠逝を痛惜し茲に恭しく弔意を表す。

「吾部の名にて出版せられし『アソシエーション・フットボール』は、實に君が自ら筆を執られしものなり」と書かれています。そして「我等は信ず、君の靈は永久に吾部の護身となりて指導せらるべきを」。

この訃報が届いたのが、のちにJFAの理事を務め、シンボルマークの図案を考案したとされる内野台嶺が1年生のときです。大きなショックを受けたことでしょう。

とにかく、東京高師蹴球部が日本サッカーの“宗家”であり、その開祖が中村覚之助であること。そして覚之助の功績として、日本で初めてサッカーの本を編集・著作・出版した

ことと、日本で初めてサッカーの対外試合を企画・実行したことが挙げられます。中村覚之助は日本サッカーの“始祖”だと言えるでしょう。

覚之助以降の日本サッカーのあゆみをもう少し続けます。日本代表がはじめて国際試合に臨んだのは1917年の極東選手権でした。当時、日本人でサッカーをやっていたのは東京高師だけなので、東京高師が日本代表として出場しました。ボロ負けです。これではいかんということで、各地の新聞社が主催や後援をして、ユース年代のフットボール大会が首都圏と東海、関西で開かれます。このうち関

中村覚之助の功績

◆東京高師蹴球部は“日本サッカーの宗家”である！
「赴任した學校にゴールポストを立てよう！」
學校を基盤とする日本サッカーの発展に貢献した
その開祖は中村覚之助

◆中村覚之助の功績

- ・日本ではじめてサッカーの本を編集・著作・出版した
明治36(1903)年『アソシエーション・フットボール』
- ・日本ではじめてサッカーの対外試合を企画・実行した
明治37(1904)年 東京高等師範學校 0-9 YC&AC

**サッカーを日本にはじめて全面的・本格的・系統的に紹介
日本サッカーの“始祖”**

西で開かれた日本フットボール大会ア式の部が、いまの高校サッカー選手権につながります。ラ式の部は花園の高校ラグビーです。

全国3か所でサッカー大会が開かれたことで、日英同盟があったためか、イングランドのフットボール協会（FA）から、日本のチャンピオンに渡してくれと、銀のトロフィーが寄贈されます。もちろんまだ日本一を決める大会はなく、サッカー協会もありません。大日本体育協会の嘉納治五郎会長のもとにFA杯が届き、東京高師の漢文の先生でもあった内野台嶺部長の尽力で大日本蹴球協会が設立されます。1921年9月です。

先ほどから何度も出てくる内野台嶺さんは、「1921年のJFA創設に無尽の貢献をした」ことと、「1931年に採用されたJFAのシンボルマーク」について「内野らの発案を日名子実三氏がまとめたものである」と、日本サッカー殿堂掲額者紹介文に書かれています。神奈川生まれのこの方は、東京都文京区にある郁文館中学を卒業して東京高師に入った方です。今日は郁文館高校の生徒で明日から高2になる新谷さんが来ています。あなたの学校ですよ。

日本サッカーは、その後いろいろありましたが徐々にレベルは上がり、1930年の極東選手権ではじめて選抜チームで臨み、アジア初制覇を成し遂げます。監督の鈴木重義は高師附中の卒業生です。主将の竹腰重丸さんは東京帝国大学の中心選手ですね。

1929年にFIFAに加盟し、1930年位に極東選手権で優勝した日本では、翌1931年にシンボルマークが決まります。

3. JFAのシンボルマークをめぐって

JFAのシンボルマークのことがどのように記されているのかを確認しておきたいと思います。

『蹴球』は、かつての日本蹴球協会機関誌です。1933年第2号に「協会旗を日名子氏案に定む」とあります。これがJFAの資料として唯一残っているものです。それについての説明が、JFA50周年史としてまとめられた『日本サッカーのあゆみ』に出ています。執筆者の新田純興さんは高師附中卒業生で東京帝大ア式蹴球部の創設者の一人。JFA創設に大きく貢献された方です。「1931年6月3日、理事会は正式に協会のマークを採用した」とあり、「マークは東京高等師範の内野台嶺教授を中心と



内野台嶺

日本サッカー殿堂 掲額者紹介より(一部補)



1884年4月29日、神奈川県生まれ

郁文館中 → 東京高等師範学校卒業、漢文学者。曹洞宗大乗寺住職

東京高師で校友会蹴球部部長を務めていた1919年、大日本体育協会会長・高師校長の嘉納治五郎氏とともにイングランド協会よりFAカップを受領。1921年のJFA創設に無尽の貢献をした。JFA創設後も初代理事の一人として運営の中心を担った。

また、1931年に採用されたJFAのシンボルマーク「三本足鳥」は、内野らの発案を日名子実三氏がまとめたものである。

1909年に赴任した豊島師範学校やその後教鞭をとった高師では、部の強化を図りサッカーの普及に努めた。1917年、高師、豊島、青山の三師範を中心としたわが国初のクラブチーム「東京蹴球団」を結成させ、日本サッカーの底上げと普及に力を注ぎ、学校中心であったサッカー界に新風をもたらした。

1918年に東蹴主催で始まった関東蹴球大会では大会委員長を務めるなど関東のサッカーの発展にも尽力し、後、関東協会会長を務めた

する人たちの発案を、
図案会の雄、日名子実
三がまとめたものでは
ある」と書かれています
(日奈子となっている
が)。そして出典とし
て「中国の古典『淮南
子』」などが記され、
「日本の神話の中にも
、神武天皇が大和国
へ入られるとき八咫鳥
が～」と書かされてい
ます。1974年の本です。

2013年3月に、日名
子実三の出身地を訪ね
たことがあります。大
分県臼杵市です。竹腰
重丸が出た臼杵でシン
ポジウムを開いたのだ
ですが、行ってみると
そこは日名子の出身地
でもあったというわけ
です。神武天皇の頭に
八咫鳥が乗っている日
名子作の像があったり
、発見の多い旅でした。

2020年1月26日の「
スポーツ×アート」の
シンポジウムの際の成
田十次郎先生の指摘
にも触れておきます。
JFAのシンボルマーク
の図案は、ブリュッセル
郊外のワーテルローの
古戦場にあるライオン
像に似ているという
ものです。日名子は19
20年代にヨーロッパ
留学し、この像を見て
いるはずですが。大砲
を足で押さえるライオ
ンにヒントを得て、カ
ラスがボールを足で押
さえる図案になったの
ではないか。成田先生の
義父・成田千里氏の遺
品にあったレプリカ像
を手にとって熱っぽく
話をされたのが印象に
残っています。

2020年1月26日の「
スポーツ×アート」の
シンポジウムの際の成
田十次郎先生の指摘
にも触れておきます。
JFAのシンボルマーク
の図案は、ブリュッセル
郊外のワーテルローの
古戦場にあるライオン
像に似ているという
ものです。日名子は19
20年代にヨーロッパ
留学し、この像を見て
いるはずですが。大砲
を足で押さえるライオ
ンにヒントを得て、カ
ラスがボールを足で押
さえる図案になったの
ではないか。成田先生の
義父・成田千里氏の遺
品にあったレプリカ像
を手にとって熱っぽく
話をされたのが印象に
残っています。



成田十次郎先生が大事にされていた
ライオン像(撮影:中塚義実)



「協会旗・マークの意義」 新田純興

『日本サッカーのあゆみ』1974年2月4日発行

1931(昭和6)年6月3日、理事会は正式に協会のマークを採用した。

●協会旗・マークの意義

マークは、東京高等師範の内野台嶺教授を中心とする人たちの発案を、図案会の雄、日名子実三(ママ)がまとめたものである。中央にいるのは、ボールを押さえている3本足の鳥。3本足の鳥は、日の神太陽を表している。中国の古典、『淮南子』という本と『芸文類聚』という本の2箇所、太陽の中に3本足の鳥がいるとみていることと、また日本の神話の中にも、神武天皇が大和国へ入られるとき八咫鳥が険阻な山路のご先導をしたということとあわせ、ここから光が輝いて四方八方を照らすことを意味している。ボールを押さえているのは、われらのボールゲーム、サッカーを統制・指導し、正しく発達し、栄光を世界に輝かせることを意味している。

旗の色、黄色は公正・フェアを示し、青色は青春・若さを表わし、全体としてはつらつとして若さ、青春の意気に包まれたわれら日本のフットボーラーの、フェアかつ偉大な心構えを表現しているのである。



『日本サッカー協会百年史』は、慎重な書き方です。「第1章 サッカーの伝来と普及」で、「横浜アマチュア倶楽部」に挑戦状を送ったこと、初めての試合は「1-9の大敗」だったことが記されています。いずれも『東京教育大学サッカー一部史』を出展としているようです。確かに試合結果を1-9とする記事も1件ありますが、中村家に伝わる写真の裏面にある通り、1点も取れずに「連戦連敗」だったはず。のちの人が間違えて1-9と書いたものでしょう。注釈には「当時高師と対戦したチームがどのようなチームだったかは不詳。YC&ACだった可能性が高いが確認できていない」とあります。確かに、明記された文書はありません。しかしこの試合を記念して、いまでもYC&ACと筑波大の交流戦は続いています。「協会旗に「三本足の鳥」を採用した経緯は明らかになっていない。(中略)誰がどのような経緯でシンボルマークに三本足の鳥を選んだのかは、今のところわからない」との記載もあります。

『東京教育大学サッカー一部史』の、小長谷亮策氏の書かれた記事もみておきたいと思います。

「東京高等師範の生徒が考案した図案であると言われているが、それが誰であったかわからないということである。もしこれを読んで心当たりの方があったら是非お知らせ願いたい」とあります。「内野台嶺先生は漢文学の教授で私どもの頃の蹴球部長」という小長谷さんの記事が掲載されたこの書籍は1974年発行なので、そのころから謎であり、いまだにはっきりしたものは出てきません。想像力を膨らませるなら、内野先生は高師附属中でも漢文を教えていたので、もしかすると附属中の生徒が言い出したかもしれません。いずれも想像でしかありませんが。

再び『日本サッカー協会百年史』に戻ると、「「三本足の鳥のシンボルマークは中村の功績をたたえるために採用されたのではないか」という説も見受けられるが、そうしたことが記された史料はまったく存在しない」との記載もあります。

JFA オフィシャルサイトのQ&Aでは、シンボルマークは「中国の古典にある三足鳥」と記されています。

「神武東征の物語を伝える『古事記』や『日本書紀』には八咫鳥が三本足だったという記述はなく、また三足鳥がもともと中国の説話にあることから、JFAとしては、旗章の由来が単に神武東征神話に登場する八咫鳥であるだけでなく、『淮南子』などの記述などから中国由来の

坪井も高師の教授となっていたが、その後、英国に留学し、1901(明治34)年にフットボールの専門書を携えて帰国した。そして、その本はフットボール部主将の中村晋之助によって翻訳され、1903年に『アソシエーションフットボール』として出版された^{注19)}。そして、東京・大塚の東京高師の新校舎運動場で本格的な練習を開始したフットボール部は横浜の「横浜アマチュア倶楽部」^{注20)}に挑戦状を送り、翌1904年7月6日に横浜公園のグラウンドで初めての試合が行われた。試合は1-9の大敗に終わったものの、以後も東京高師の外国人倶楽部への挑戦は続いた^{注21)}。ちなみに、「フットボール部」の名称は、この頃に「蹴球部」に変わったとされる。

注19) 当時高師と対戦したチームがどのようなチームだったかは不詳。「YC&AC」だった可能性が高いが確認できていない。

『日本サッカー協会百年史』
第一章 サッカーの伝来と普及(41頁)

なお、協会旗に「三本足の鳥」を採用した経緯は明らかになっていない。日本蹴球協会の50年史『日本サッカーのあゆみ』(1974年)では「東京高等師範の内野台嶺教授を中心とする人たちの発案」との記載はあるが、『財団法人日本サッカー協会75年史：ありがとう、そして未来へ』(1995年)ではそのことが書かれていない。一方、東京教育大学サッカー部(東京高等師範学校が前身)の『東京教育大学開学100年記念』(1974年)では、「日本蹴球協会の三本足の鳥のいわれ」の項において「(前略)大正の終りだったか昭和の初め頃だったが、東京高等師範の生徒が考案した図案であるといわれているが、それが誰であったかわからないということである」という報告がなされている。同誌では、東京高師OBの内野台嶺に関して調べた三本足の鳥と太陽と鳥の関係について記録されているのみである。

つまり、誰がどのような経緯でシンボルマークに三本足の鳥を選んだのかは、今のところわからないのである。

「日本蹴球協会の三足鳥のいわれ」 小長谷亮策

『東京教育大学サッカー一部史』1974年2月発行

日本蹴球協会の会旗や徽章に、黄色地に三本足の鳥がボールを抑えているが、これは太陽の中に三本足の鳥がいるという故事にもとづいているものである。そしてこれは大正の終りだったか昭和の初め頃だったが、東京高等師範の生徒が考案した図案であるといわれているが、それが誰であったかわからないということである。もしこれを読んで心当たりの方があったら、是非お知らせ願いたいものである。私は蹴球界の育ての親ともいっていい先輩の内野台嶺先生(漢文学教授で私どもの頃の蹴球部長)から聞いて調べた。三足鳥の出展と太陽と鳥との関係などの記録を記して参考に供したいと思う。(以下略)

ところで、東京高師蹴球部が正式のルールや本場のフットボール教本に則って本格的強化に取り組み、横浜の外国人クラブと初めて対戦した時の同校蹴球部主将、中村晋之助が和歌山県東牟婁郡那智町(現、那智勝浦町)出身であったことから、「三本足の鳥のシンボルマークは中村の功績をたたえるために採用されたのではないか」という説も見受けられるが、そうしたことが記された史料はまったく存在しない。

『日本サッカー協会百年史』2023年3月31日発行
「シンボルマークの由来」より

シンボルであるとしています」とのこと。出典は『日本サッカー協会百年史』です。

Q.日本サッカー協会（JFA）のシンボルマーク（旗章）の意味は？

JFAの旗章に用いられている「三本足の鳥」は、中国の古典にある三足鳥と呼ばれるもので、日ノ神=太陽を図案化したものです。

1931（昭和6）年6月の大日本蹴球協会の理事会で旗章（シンボルマーク）の採用を決め、翌1932年の全国代議員会で彫刻家の日名子実三のデザインを協会旗に定めることを決定しました。

中国の三足鳥の説話は早くから朝鮮半島北部にあった高句麗に伝わり、その後、東アジア各地にも広まっていきました。そして日本にもこの思想が伝わったため、次第に八咫鳥（やたがらす）と混同されて、八咫鳥が三本足で描かれるようになっていきました。八咫鳥は、日本の建国神話の中の神武天皇東征の説話に登場する神の使いで、日名子はこれをモチーフにJFAの旗章を制作しました。しかし、神武東征の物語を伝える『古事記』や『日本書紀』には八咫鳥が三本足だったという記述はなく、また三足鳥がもともと中国の説話にあることから、JFAとしては、旗章の由来が単に神武東征神話に登場する八咫鳥であるだけでなく、『淮南子』などの記述などから中国由来のシンボルでもあるとしています。

出典：『日本サッカー協会百年史』 <https://www.jfa.jp/documents/faq/inquiry.html>

最近見つけた WEB サイトに「中村覚之助ドットコム」があります。

<https://www.nakamura-kakunosuke.com/>

「日本サッカー協会のシンボルマークは誰が作ったのですか？」の項目では、中村覚之助さんが作ったわけではなく日名子実三さんというアーティストがデザインしたものであること、そもそもの発案者は東京高師教授の内野台嶺さんを中心とする人たちであり、内野さんは中村覚之助の後輩にあたるということだけが書かれています。初めてサッカーの対外試合を企画実行したのが中村覚之助であることも明記されています。

このあたりを、現時点での共通理解として持っておきたいところです。

Ⅲ. 今後に向けて

中村覚之助の「メジャー化」のためにということで、そろそろまとめます。2025年7月のヤタガラス協会総会の際の講演で用いたスライドです。

まず中村覚之助は、日本サッカーの“始祖”として功績大であり、日本サッカー殿堂入りにふさわしいということです。いつ、どの組織が、何を根拠に提案するのか。そのことを具体化し、戦略的に動き始めるべきであると考えます。その際、JFAのシンボルマークの由来とは切り離して考えるほうがよいと思います。

そのためにも、地元那智勝浦町の方々に、郷土の偉人のことを知ってもらいたいということです。「中村覚之助杯」が始まったのはよいことです。さらに充実させ、いずれは記念館の設置なども目指していきたいところです。

そして、地道な歴史研究を進めていくことが不可欠です。この点で、若手研究者には大いに期待しています。日本サッカーの導入期、JFAシンボルマーク制定期のあたりをしっかりと掘り起こし、誰もが納得できる形で提案し、殿堂入りにつなげたいと思います。

中村覚之助の「メジャー化」のために

1. 日本サッカーの“始祖”として功績大。
日本サッカー殿堂入りにふさわしい！
いつ、どの組織が、何を根拠に提案するかを
具体化し戦略的に動きは始めるべき

2. まずは地元那智勝浦町の方々に、郷土の偉人のことを知ってもらいたい！
「中村覚之助杯」を充実させる。いずれは記念館も

追記) 歴史研究を進めていくことが不可欠
・日本サッカー導入期(1860年代後半～20世紀初頭)
・JFAシンボルマーク制定期(1930年前後): 戦争に突入する時代の

那智勝浦町の「議会だより 第51号（令和7年11月）」には、中村覚之助の殿堂入り実現について曾根和仁議員の質問が記されています。「中村覚之助を紹介するコーナーの充実を図るとともに、日本サッカー殿堂入りの実現に向け、町長がトップダウンで行動を」というものです。町長からは「以前から、時間があれば日本サッカー協会を訪れ、日本サッカーを応援する自治体連盟にも加入して、会長に申し上げている。引き続き殿堂入りを進めていきたい」との回答です。議会、町長とも前向きです。

那智勝浦町 議会だより第51号 令和7（2025）年11月発行

https://www.town.nachikatsuura.wakayama.jp/div/gikai/pdf/gikaidayori/gikaidayori_512.pdf

先ほど熊澤さんが話してくれた、覚之助とアメフトについて書かれた論文が「日本へのアメリカンフットボールの流入と高等師範学校」です。この論文の中で、覚之助ら東京高師フットボール部の活動が紹介されています。そして東京高師がスポーツの「導入」と「普及」加え、どのスポーツを導入すべきかという「選別」という役割を果たしたことが明らかにされています。つまり、日本人にとって、あるいは日本の学校において、採用すべきか否か、採用できるかどうかを考えながら取り組んでいたということです。

一橋大学期間リポジトリ HERMSE-IR 2018年11月7日公開

<https://hit-u.repo.nii.ac.jp/records/2040507>

これらのことを踏まえながら、残りの時間、自由に意見交換していきたいと思います。

野村：すごく勉強になりました。サッカーの本を最初に出されたということと、サッカーをする場を作ったというすごい方だなと思いました。僕が願ってもどうしようもないですけど、殿堂入りはしてほしいな、すごい方だなということを感じました。

若くして亡くなられたというのがすごく残念だなと思いました。

中塚：若くして亡くなられたことが原因かどうかかわからないけど、我々同窓生の中でもあまり語られることがなかった方なんです。先ほども言ったように、私が最初に知ったのは2006年ごろです。東京教育大の先輩の方々も、中村覚之助についてはほとんどご存知なかったんです。けど2009年度あたりからの動きの中で多くの人を知ることになり、よかったなと思っていますがもうひと踏ん張りです。

ほかの方からどうでしょう。日中交流史を研究されている野田さんは、その観点で気になる場所などありますか。

野田：断片的なんですけど、いくつかお話をします。

僕が研究している19世紀後半から20世紀の初め頃は、二度の世界大戦をやる前の時代で、中国と日本が今よりもよい関係だったというか、歴史的にはいろいろあるんですけど、日中間の問題が少なかった時代です。その中で中村覚之助さんも東京高師を出て山東省に行かれ、病気をされてしまった。そういう時代だったんですね。

それから今日出てきた中で、竹腰重丸さん。この方は大連一中に行っておられました。私は大連の街中のことを詳しく調べているのですが、彼は大連一中でサッカーを始めて、やがて日本サッカーの中心選手になっていくんです。日中交流をやっていた時代の人ですね。そこに少しだけ添えると、竹腰さんより中村覚之助さんに近いんですけど、内野台嶺さんがいます。中塚さんが言われたように、覚之助が亡くなった時、内野台嶺さんは1年生です。相当インパクトがあったと思います。活動をはじめて本を書いてやっていた人ですから。28歳で亡くなったというのもものすごいインパクトだったはず。そのあたりのつながり、時代があったんだなと思いますね。

私はいま歴史研究に入り始めてるので、もう少し資料があって事実関係が確かめられるものが出てきたらいいのという気持ちがあります。

それとはちょっと別の次元ですが、中塚さんが言われるように、日本サッカー殿堂ということを見ると、もうわかっている、明確な業績で、例えば『アツソシエーション・フットボール』を著したとか、初めての対外試合をやっているとか、そういうことをきちんとアピールするのがいいのではないかと個人的には思います。

それとおまけですが、私の本籍地が三重県の尾鷲市というところで、第2回中村覚之助杯があった日にも、実は家族の旅行で行っていました。ニアミスだったんです。それと、これは極めて雑談なんです。僕の祖父の兄は野田覚太郎と言います。あの時代は「覚」という字を名前に使うのが流行っていたのかもしれないと、少し感じました。ちょっと雑談交じりでしたが、とりあえず以上です。

中塚：ありがとうございます。雑談ついでで言うと、竹腰重丸さん。戦前から戦後にかけて、日本サッカー界のど真ん中におられた方ですが、サッカー史研究会で覚之助ツアーの次に行ったのが竹腰重丸ツアーだったんです。大分県の臼杵市に出かけてみて気づいたのが、実は日名子実三もその出身だということです。これは先ほど話したことです。

そのときご一緒させてもらったのが、審判の分野でサッカー殿堂入りされている浅見俊雄さんです。竹腰重丸の娘婿なんです。そんなこともあって、浅見さんがいろんな資料を集めて紹介してくださったんですが、竹腰重丸は臼杵中から大連一中に転校したんです。転入試験を大連一中でやるんですが、受験したのは竹腰さんのほかにもう一人だけの2名。転入試験だからこれぐらいです。最初に監督の先生が試験問題を配ります。ところが監督の先生はずいなくなった。「あとは自分たちでしっかりやっておきなさい」。大連一中は、そういう大らかなところを持ち合わせた、自由な校風の学校だったそうで、当時は「日本三大リベラル校」と言われていたと。東京府立一中、神戸一中と大連一中。そういうことが、大連一中の学校史に書かれていました。それは浅見先生が持っておられたものですが、そういう気風が大連一中、そして大連という街にもあったのかもしれない。

野田：いろんな歴史があるわけですけど、先ほど国際試合の結果がボロボロだったと出てました。日本がアジアの中で弱かった時代が最初にあります。中国の方が強かったわけなんです。韓国のことは不勉強で知らないんですけど、中国の方がサッカーは少し早く始まってレベルが高かった時期があると思うんです。大連には市民リーグも、当時からあったはずなんです。植民地支配や戦争があったりする前の、アジアの国々の間がいまよりもイーブンな温かい関係があったんじゃないかなと僕は思っていて、そこを掘り下げていきたいと考えています。もしかしたらスポーツは、当時の交流の一つの切り口になるのかもしれないと思ってたりしています。

中塚：そうですね。嘉納治五郎が中国や朝鮮半島の留学生を7,000~8,000も受け入れていた時代ですよ。そして卒業生の中には、いまの中国国家の歌詞を書いた人だったり毛沢東の先生になった人もいます。だから嘉納人脈というのも中国にはあったのかもしれないですね。スポーツ交流という観点からも、もう少し明らかになるといいなと思います。

野田：ヤタガラスで言えば、資料が欲しいですね。

中塚：おっしゃる通りです。

では他の方からも。別の観点でかまいませんのでいかがでしょう。

谷：歴史の話は専門外ですが、百年以上前からいろいろあったんだなと思いました。話をお聞かせいただきありがとうございます。

那智勝浦町では、日本代表がワールドカップ前に、代表監督とか協会会長が来られます。今回も宮本キャプテンらが来られると思います。私の中では、代表のユニフォームエンブレムは熊野の八咫鳥です。だからサッカーを愛する人はみんな熊野を愛し八咫鳥を愛し、だからJリーガーやチームも監督もお参りに来たりするのだと。僕が小さい時はなかったのですが、最近すごく盛んになったと思います。来月か再来月か、今か今かと待ち遠しく思っているんです。熊野にお参りに来る文化が、最近になって流行ってきたように思います。それが中村覚之助さんの影響なのかがわかってないんです。

お話を聞いても、JFAのマークと八咫鳥は関係ないというか、あるのかないのかわからないとのこと。なんでこのようになってきたのかがどうもわかりません。メディアの影響でしょうか。いま不思議に思っているというところです。

中塚先生のご意見をお聞きしたいと思い、質問させていただきます。

中塚：中村統太郎さんから聞いた話ではありますが、2002年のワールドカップ招致活動のころ、当時のJFA会長の長沼健さんは世界中を飛び回っていました。そして世界の人たちに日本のサッカーはこうだと紹介する中で、シンボルマークも紹介するわけです。相手方は、「何で三本足のカラスが日本サッカー協会のマークなんだ」って当然聞いてきます。そのときに長沼会長が答えていたのは、『日本サッカーのあゆみ』に新田純興さんが書かれていたとおりで、中国の古典のどうのこうのというような回答です。あれがオフィシャルな回答でしたから。すると「何で日本のマークが中国由来になるんだ」という話になっていたということです。

長沼会長はずっと疑問に思っていたらしいんですけど、巡り巡って熊野に来られたとき、中村統太郎さんから、東京高師蹴球部で最初にサッカーをやり始めたのが中村覚之助で、この人は熊野の出なのだということ、そしてこの地は八咫鳥の地なのだという話を聞かれます。長沼さんは「やっとわかった。それで八咫鳥になったのだ」ということで腑に落ちたらしいんです。中国由来ではなく、日本のシンボルマークは日本の八咫鳥が由来なのだ。

おそらくこのあたりから、JFA幹部の熊野三山訪問が始まったのだと思います。

ただもう一方でご存知の通り、「神国日本」を掲げた戦前～戦中にかけての日本の教育の中で、八咫鳥が、天皇の神格化の象徴になってしまった側面もあります。だから「日本サッカー協会のシンボルマークは八咫鳥なのだ」ということを大っぴらには言えなかったというのがあったと思います。

いまもそれを引きずっているでしょう。長沼健さんの納得については、歴代JFA会長はじめ幹部の中では受け継がれ、だから毎回、大きな大会のたびに来てくれていると思います。そういう意味では2002年大会が節目となったということですね。

谷：腑に落ちましたし、納得しました。ありがとうございます。

中塚：他の方はどうですか。在仲さんが事務局をされている日本ヤタガラス協会としても、今後のアクションプランを考える上で大事なポイントが含まれていたような気がします。

在仲：そうですね。なかなか難しい話だとは思いますが。私も那智勝浦町の役場OBで、以前は観光課の課長もしておりましたので、サッカー協会も行かせていただきましたしいろんな話も聞かせていただきました。先ほど中塚先生も言いましたが、八咫鳥がマークになっているというのはあまり推してはなくて、覚之助さんがサッカーを日本に紹介したというのをヤタガラス協会としても推していきたいなと思っております。それを中塚先生を中心に、今後も町民の皆さんに伝えていけたらなと思っておりますので、ぜひぜひ先生これからもよろしくご指導のほどお願いします。

中塚：ヤタガラス協会としては、こういう話とは別に、三本足のカラスの話は中国にもあるし、朝鮮半島の、特に北朝鮮の方にもあるんですね。日本にもあります。だから東アジアをつなぐ大事なツールになってくるんじゃないかということで、ヤタガラス協会でも中国や韓国、北朝鮮に行こうという話もしてるんですけどね。

在仲：韓国の方では「三本足鳥」っていうんですけど、その協会がありまして、そちらの方ともつながりがございます。そういった中で、韓国にもヤタガラス協会として行き、お話を聞きたいなと思っておったんですが、先ほど先生の話にもありましたように、コロナの関係や、韓国との国際的な問題もありまして、途中で終わっているような状況です。けど当協会としましては、最終的にはそういった方面にも行きたいなとは思っております。

中塚：私も強く参加を希望します。ほかの方がいかがですか。そろそろ時間も迫ってきましたが。

赤阪：去年の夏に、中村崇さんにご同行いただいて統太郎さんのところに熊澤先生、関口先生と伺いました。終わった後、お風呂につかりながら1時間ぐらい話をした中で、熊澤先生の発案だったと思いますが、覚之助を一人の「文化人」として捉えていったらどうかというのを話した記憶があります。フットボール単体で殿堂入りできるかというのは、協会の渋りもあって難しいかもしれません。ノートとかをひと通り拝見させていただいたり、水泳のことや絵画のこと、野田さんの話にありました大連の話や在仲さんの韓国の話、あるいは早稲田の高嶋航先生が『帝国日本とスポーツ』で書かれた満州とのスポーツ交流のことなど、日本も関わっていた時代に、もし覚之助が生きていたらと…。

ちょっと話はそれますが、今日のJFA理事会で田嶋幸三さんの名誉会長、日本代表元主将の井原正巳さんのサッカー殿堂入りというニュースがいまYahoo ニュースに上がっています。けどそこに乗っからずとも、覚之助がもう少し長く生きていれば文化勲章に値する活躍をしたのではないかと思います。一人の文化人として覚之助を取り上げ、その中で特筆すべきはサッカーの、というような書き方で、街の皆さんに紹介していけばよいのではないのでしょうか。ヤタガラス協会や私たちの方でそのようなシンポジウムを継続的にやる。ゲストに田嶋名誉会長を呼んだり、東京芸大とコラボをするような大きなイベントもありますが、続けることでどこかの誰かに引っかかり、結果的に向こう側から「サッカー殿堂どうですか」って来るような仕掛けができればいいなと思います。

個人的に何ができるということはないんですけど、続けていくことが大事だなと。中村覚之助杯も含め、続けていくことに意味があるのではないかと思います。

中塚：ありがとうございます。そろそろ予定の時間になってしまいました。

中村崇さんから一言いただき、最後の締めは、内野台嶺の母校に通う新谷さんに、若手からの感想をいただいております。おしまいにはしたいと思います。

中村：先ほど赤阪先生からもお話がありましたように、昨年の夏に、中村統太郎様のご自宅で貴重な資料の予備調査をしていただきました。中塚先生からノートの紹介等もありましたけど、貴重な資料が現存してるので、それらの分析と今後の保存、そういったところをどうしていけばよいかを教育委員会で話しているところです。

その中で、先ほどのお話にもありましたように、文化人として捉えるのも一つの方法です。そこに関しては町の文化財審議委員の方にもお話しており、サッカーだけでなく、もっと大きく捉えていくことについてご理解をいただいております。そういったところも含めて、町民の方への周知を今後も続けていきたいと考えております。

新谷：今日も深い学びをありがとうございます。今までサッカーとか中村先生のことを存じ上げてなかったのですが、新しいことを学べてとても嬉しかった反面、中村先生という日本サッカーの第一人者が殿堂入りしてないということがとても残念に思えました。殿堂入りされればいいなと思いました。

それと、いま在学中の郁文館に、大先輩の内野台嶺さんがいらっしゃるということを知らなくて、私はサッカー一部でも何でもないので、とても嬉しい気持ちになりました。

今日は本当にありがとうございました。

中塚：ありがとうございます。郁文館の先生にも紹介してあげてください。

新谷：はい、ぜひします。

中塚：では残れる方はこのまま残りましょう。5分後に乾杯です。

以上（続きはオンライン懇親会）